

太陽光発電システム
+
家庭用燃料電池

「W発電」住宅が完成

ぼうはうす
構造材の90%以上
に県産材
22・23日現場見学会を開催



6畳あるベランダは、家族全員の洗濯物も十分干せる広さ

注文住宅のぼうはうす(高崎市中泉町643-6、清水光成社長☎027-372-1930)は、太陽光発電システムと家庭用燃料電池コージエネレーションシステム「エネファーム」を搭載した「W発電」住宅を前橋市内に建築した。居住時のCO2排出を抑えるとともに、余った電力を電力会社に売電することで光熱費を低減することができる。また、住宅の構造材の90%以上に県産材を使用した。清水社長は「県産材を使ったW発電住宅を先進性と環境性、光熱費削減をアピールできる住宅として、エコ意識の高いお客さまに対して、積極的に提案していきたい」と話している。(松田賢二)



清水社長

建設地は「R前橋大島 大切にしたい環境配慮型の駅から徒歩10分ほどの閑静な住宅街。建築主は「家族の健康と、自然素材を大切にした環境配慮型の住宅」を望む前橋市在住の5人家族で、太陽光発電システムは三洋電機製の「かぶらスギ」を多用した。住宅の外観は、屋根形状を南下がりの片流れにしたボックス型のモダンなデザイン。外壁は南九州シラス台地産の火山灰を用いた「白州そとん壁」、玄関とバルコニーの壁面には防錆と不燃処理を施したウエストナレッドシダーを板張りし

住宅の規模は、木造2階建て延べ床面積約130平方メートル。壁には羊毛断熱材(ウールプレス)を使い、下地の壁紙と塗装は通気性に優れたドイツ製の自然素材を使用。開口部は気密性の高い樹脂サッシ、ドアなどの建具はすべて同社のオリジナルで、収納内部は防虫効果の高いキリで仕上げた。大きな吹き抜けのある16畳のリビングダイニングや、家事の効率をよくするために一直線に配置した水回り、奥行き90センチのミシンカウンターがある洋裁のアトリエスペースが特徴。キッチンに大きなカウンターを設けて、家族全員が料理に参加したり、アトリエから庭で遊ぶ子供の様子が見えるよう工夫した。2階の子供部屋は大きなワンルームで、

同社によると、今回の光発電システムの余剰電力の買取制度では、今年他の発電装置と併用している場合は39円(燃料電池など)で電力会社から売電できる。燃料電池で発電した電力は、前橋市などから支給される補助金の総額は約260万円になるという。さらには、1日に始まった太陽

口部は気密性の高い樹脂サッシ、ドアなどの建具はすべて同社のオリジナルで、収納内部は防虫効果の高いキリで仕上げた。



自然素材の魅力あふれるリビング

同社では22・23日、現地で完成見学会を開催。時間は両日午前10時から午後5時。参加には予約が必要。問い合わせは同社へ(現場の施工記録は同社ホームページ <http://www.bauhaus-lab.com/> で閲覧可)。

補助金は総額260万
売電で光熱費削減

前橋市などから支給される補助金の総額は約260万円になるという。さらには、1日に始まった太陽